

第2学年 英語科 学習指導案

比叡山中学校 教諭 峯松 拓哉

1. 単元名 A Hope for Lasting Peace

2.

3. 単元の目標

- ・受動態を用いた文を理解し、人やものについて紹介する文を用いてやりとりができる。
- ・受動態の文を用いて、歴史的建造物について紹介する英文を書くことができる。
- ・平和の折り鶴が抱える課題を読み取り、代替案について簡単な英語で表現できる。

4. 単元について

1) 教材観

本単元では受動態を初出として扱っている。英字新聞の表現などを見ていると受動態の使用頻度はかなり高い。主語と目的語を入れ替えるだけのような形式的な操作だけでなく、実際の用例を扱いながら受動態の役割や、主語が変わることにより生まれる意味内容の違いに気づかせるような指導をしていきたい。

また本単元では広島で被爆した佐々木貞子さんの話や、平和の折り鶴が抱える課題について書かれている。貞子さんのような犠牲者を再び出さないために、そして平和に対する祈りを繋いでいくための持続可能な手段について考えを深め、行動変容につなげていくことが本単元を扱う上で大切なことであると考えます。

2) 生徒観

全体的に話すことによるアウトプットへの抵抗感は少ない。子どもたちどうしの関係性もよくおおむね誰とでもやりとりができる。しかし、語彙力や表現力には開きがあり、ライティングになるとそれがより顕著に表れる。

そこで、1年生の時から「全員が学びに参加できる英語授業」を目指し、既習事項に何度も触れられるようなペア活動を取り入れ、英語に対する抵抗感をなるべく感じないような授業づくりをしてきた。また、スピーキング活動がライティング活動の足場かけとなるよう活動の順序や内容を意識的に組み替えた。

また、一人一台端末を持っており、安易に翻訳に頼ってしまう場面も見受けられるので、翻訳によって生徒が提示した表現を自分たちが習ってきた文法・単語で表せないか、と考える時間も必要に応じて設けている。

これまでやりとりを繰り返していることもあり、子どもたちは①できること、②したいこと、③しなければならないこと、④これからやるつものこと、など意思表示をするための表現は身についてきている。教材の内容を自分ごととして

捉え、①～④のようなシンプルな表現でも自分の思いを発信できる！という成功体験を積み、自信を持って「自分の英語」を使いこなせるような子どもたちを育てていきたい。

3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、佐々木貞子さんの被爆体験について学ぶために、教科書内容だけでなく、広島平和祈念資料館で展示されている佐々木貞子さんに関する英文の一部抜粋を資料として提示する。自分たちと同年代くらいの少女の体験談を通じて自分が感じたことについて、既習事項を使いながら自分の英語で伝えられるよう指導したい。また、折り鶴の保存にコストがかかっているという事実に向け、平和の祈りを繋いでいくために他にできることはないか模索し、代替案を自分の英語で表現できるように指導する。

その際に、考える部分はグループで適宜日本語を交えながらやりとりの材料を集め、ペアで自分たちの考えを伝え合うなど、目的に応じた活動形態を用いて子どもたちの口から英語が飛び交う状態をつくる。

4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

相互性：平和のために行動することが何につながるのかについて思いを馳せる必要がある。

連携性：平和な世界を実現するために、違いを受け入れ、認め合い、協力していく必要がある。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

コミュニケーションを行う力

平和な社会を実現するために他者を大切にされたコミュニケーションを図ろうとする力をつける。

つながりを尊重する態度

平和な社会を実現するために、他者との関わりの中で自分の考えを見つめ直し互いに尊重しあえる態度を身につける。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

平和な社会を実現するために、上の世代から受け継いだことを次の世代に繋いでいく責任が私たちにはある。

人権・文化を尊重する (文化多様性の尊重)

自分と異なる価値観、文化的背景をもった人を認め大切にする。

・達成が期待される SDGs



4) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1)受動態の文を使って人やものについて紹介する文を書いている。 2)既習事項を用いて自分の思いや考えを伝えている。	1)貞子さんのような犠牲者を出さないために自分たちができることについて考え、自分が知っている英語で表現している。 2)折り鶴が抱える課題に対する代替案を考え、自分たちが知っている範囲の英語でやりとりをしている。	1)学習内容を自分ごととして捉え、英語を使って自分の思いや考えを伝えようとしている。 2)自分が知っている範囲の表現を使って英語でコミュニケーションをとろうとしている。

5) 単元の指導計画（4時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価備考
1	○受動態の導入 ・文法規則の理解 ・基本例文の活用	・多様な文脈・使用場面を与え、受動態を使用する必然性をつくる	△ア1 △ウ2
2	○受動態の活用 歴史上の人物や建造物について3ヒントクイズを作ろう	・受動態を使って歴史的建造物や人物について紹介する英文を作る。	△ア1 △ウ2
3	○教科書内容 佐々木貞子さんについて ・貞子さんの体験について英語で読み、理解する ・貞子さんに自分の思いを伝えるとしたら何を伝え	・自分の思いを伝えるための表現を子どもたちから引き出す。 ・広島平和祈念資料館における貞子さんの記述も資料として提示	△ア1、2 △イ1 △ウ1、2

	る？	し、さらに理解を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 翻訳や AI を使って作られた不自然な英文や不可解な英文について取り上げ、既習事項を使って表せないか必要に応じて問い返す。 	
4	<p>○教科書内容 折り鶴の課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「平和といえば折り鶴」というイメージをもっているが、送られる側で抱える課題とは？ <p>○平和のための支援策って折り鶴以外に何があるの？ 班でアイデアを出し合い英語で伝え合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折り鶴に関するニュース記事も参考資料として提示する。 ・ 自分たちが理解できる範囲の英文で伝えることを指導する ・ 翻訳や AI を使って作られた不自然な英文や不可解な英文について取り上げ、既習事項を使って表せないか必要に応じて問い返す。 	<p>△ア 1、2 △イ 2 △ウ 1、2</p>